

第39回道本部委員会 要求を前進させ仲間を増やして 勢いの中で道本部結成20周年を迎えよう

2月16日に開催した第39回道本部委員会で「2020年春闘方針」などを決定しました。委員会には道本部委員23人をはじめ役員・傍聴者をふくめ40人あまりが参加しました。道本部の森国委員長は「桜を見る会をめぐるウソ・隠ぺい・改ざんは安倍政権の体質を示すものであり、追及の手を緩めることなく一刻も早く退陣させなければならない。新型コロナウイルスでは後手後手の対応をしながら、緊急事態条項が必要だと強弁して改憲に結び付けようとしているが、改憲を許さないたたかいを強める必要がある。20春闘で要求を前進させ、仲間を増やして勢いの中で道本部結成20周年を迎えよう」とあいさつしました。

地域での共同ひろげ職場での差別許さないたたかいを

宮澤書記長が大会以降のとりくみの経過と到達点、2020年春闘方針案などを報告・提案し、討論では9人の発言がありました。発言では、トラック・建設・労災職業病・鉄道・学童保育・ダンプなど道本部を構成するすべての業種と地域でのとりくみについて報告と決意が述べられ、地域での共同のとりくみの経験や職場での組合員拡大、ブレずにとりくみを続ける重要性、職場で「同一労働同一賃金」を実現して非正規労働者の差別を許さないたたかい、組合員のやる気を引き出す統一行動と労働組合の「見える化」など活発な意見がかわされました。

ニューヨーク行動(NPT再検討会議・原水禁大会)代表派遣カンパ

道本部委員会では、4月にニューヨークで開かれる「NPT(核不拡散条約)再検討会議」と初めての海外開催となる「原水爆禁止世界大会」に建交労全国青年部の代表として参加する函館支部の鈴木さんから決意表明があり、参加者からカンパ(34,000円)が寄せられました。

北海道鉄道本部が春闘要求書を提出 月額36,000円の賃上げなど

職場要求43項目・非正規労働者の処遇改善・安全とサービス向上も

北海道鉄道本部は2月13日に「春闘要求書」をJR北海道に提出しました。賃金要求では月額36,000円の基本給引き上げ、高卒初任給170,000円、諸手当の引き上げなどを求め、50歳以上の賃金改善、65歳定年制・退職給付の改善とともに、43項目にわたる職場改善要求をまとめています。また、今年4月1日から施行される「パートタイム・有期雇用労働法」の立法趣旨と「同一労働・同一賃金のガイドライン」にもとづく雇用延長制度及び非正規労働者の処遇改善について、列車の安全・安定輸送に直結する貴重な要員となっているエルダースタッフの賃金・諸手当の改善などを求める8項目の要求や、安全とサービス向上にむけた要求5項目も盛り込みました。